

今月の

数字

8カ所

(国立公園満喫プロジェクトの
モデル公園)

松田 恭子

Profile まつだ・きょうこ ●日本能率協会総合研究所で公共系地域計画コンサルタントとして10年間勤務後、東京農業大学国際食糧情報学科助手を経て農業コンサルタントとして独立。実需者と生産者の連携の仕組みづくりや産地ブランド戦略を支援している。日本政策金融公庫農業経営上級アドバイザー試験合格者。株式会社アソシエイト代表取締役。

「グランピング」という言葉を聞いたことがあるだろうか。デジタル大辞泉によれば、glamorous（グラマラス）とcamping（キャンピング）を併せた造語で、山野に設置された豪華なテントやロッジに宿泊して、ホテル並みの快適なサービスを受けながら、自然との触れ合いを楽しむことを指している。

一般社団法人グランピング協会によれば、2005年には英国でグランピングという言葉がすでに使われていたという。英国では250を超えるグランピングスポットが展開され、宿泊施設はハットと呼ばれる小型の小屋、古風な馬車風トレーラー、ゲル（モンゴル風テント）など牧歌的で手の届く価格で宿泊できるため、風光明媚な場所でのんびりとした旅が楽しめる。

日本では、2015年10月に「日本初となるグランピングリゾート」として星野リゾートが「星のや富士」を開業した。富士山麓と河口湖を一望できる山麓の広大な土地を開発するにあたり、星野佳路社長は海外で体験したグランピングをもとに「遊びをデザインできる大自然」「グランピングマスターが提案するアウトドア体験」「屋外を感じることができる快適な客室」「ワイルドライフが好きなシェフが演出する食事」といった4つのコンセプトを決めた。客室は一面が窓になっており、富士山麓と河口湖が見渡せる。テラスにはこたつとランタンがあり、屋外で景色を眺めながら朝食を摂る。大自然を感じながらも快適に過ごせるという点に工夫が凝らされており、ターゲットは普段キャンプをしないインドア派だ。

星野社長は、海外のグランピングで提供されるアクティビティ（体験サービス）について、「自然の中で過ごすこと自体の爽快感、楽しさ、面白さが醍醐味だから、

アクティビティが揃っているようなところはあまりなかった気がします」と語っている。星のや富士の宿泊者が一様に評価するのは「取り立てて何をするわけでもなく、ゆったりと寛げる」ということだ。実際には、薪割り体験、早朝の河口湖力ヌー体験、ストレッチ、青木ヶ原樹海探索、燻製づくり、乗馬など多彩なアクティビティが用意されて少人数で行なわれている。

「グランピング」という言葉がこの先定着するのかわからないが、その概念は確実に定着するだろう。中心となるのは「日常生活からのスイッチオフ」だ。慌ただしい生活を離れることで自分と向き合い、新たな思考が生まれる時間を求める人は多い。その場面で必要とされる体験は、汗にまみれる本格的なアウトドアスポーツや、大人数で行動するイベントではない。快適な状態でいつもと違う自然や文化に「少しだけ触れる」という設定と、付かず離れずのサービスが重要になる。

環境省は今年1月に「国立公園満喫プロジェクト」として、先行的・集中的に取り組む8カ所の国立公園において、具体的な取組方針を記載した「ステップアッププログラム2020」を策定した。日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化を図ることを目標とし、民間企業と連携しながら訪日外国人の受入も視野に入れながら魅力発信しようというものだ。面白いのは、「最大の魅力は自然そのもの」をコンセプトとし、廃屋などの景観を阻害する施設を撤去する「引き算」の景観改善が提唱されていることだ。農泊や移住についても地元のアクティビティをすべて体験させようとするのではなく、引き算でサービスを設定することも必要だ。